資料2

文化芸術推進計画策定のイメージ

●現状の整理

市の関連計画
- 第３次島田市総合計画前期計画（R８～15）
- 島田市観光戦略プラン（R８～12）
- 島田市文化財保存活用地域計画（R８～17）
- 島田宿大井川川越遺跡整備基本計画（R２～17）
  など

国・県の計画
- 文化芸術推進基本計画（R５～９）
- 第６期静岡県文化振興基本計画（R７～10）

●強み・課題の抽出

島田らしさ
- 大井川による東西の分断と交流の歴史
- 大井川、蓬莱橋、ＳＬ、茶畑　　・交易による豊富な物産
- 地区ごとに活発な文化・芸術活動
- 牧之原台地から眺める大井川と富士山の景観
- 市民の奥ゆかしさ、懐の深さ、優れた文化の受容性
- 都市からの移住に適した立地　など

◆計画の骨子案◆

【方向性】

基本理念（案）

大井川の恵みが育む文化芸術を紡ぎ、誰もが心豊かになれるまち『しまだ』

市民が島田に誇り・愛着をもつ→誰もが自己実現して心豊かになる→交流の輪が広がり活力あるまちになる

めざす姿（案）

ヒト・モノ・コトの架け橋となる交流都市

まもる	地域のアイデンティティーを形成する、またはそれに匹敵する大事なものを保存。承継する。
はぐくむ	育てる、活用すること等により、そのものの価値をさらに高める。
つくりだす	創出する、特性を付加する、再評価すること等により、新たな価値を得る。
つなげる	連携・協働し、発信することにより、文化芸術のもつ力を様々な分野へ波及させ、魅力ある未来へとつなげる。

×

大井川の恵み

- 人
- 地域資源
- 場

【キーワード】
- 人：「しまだ」に関わるすべての人
- 地域資源：自然や風景、生活文化、芸術文化、文化財等、先人が大切にしてきた「しまだ」ならではのかけがえのない財産
- 場：文化芸術を紡ぐ様々な空間

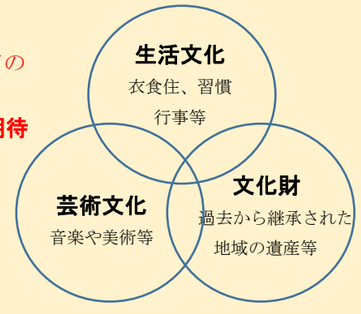
【検討の視点】
- 誰もが参加できる環境づくり
- にぎわいを創出する人材の育成・確保・活用
- 異文化・多世代交流の促進
- 人をつなぐための情報の整理と発信の強化
- 大井川が育んだ地域の文化・習慣等の保存と承継
- 大井川を核とした地域固有の文化の活用と創出
- 郷土への愛着や誇りの形成
- 領域を超えた柔軟な連携
- 地域課題へのアプローチ

●文化・芸術をとりまく背景

【社会の動向】

○人口減少・少子高齢化の進行（労働人口・地域社会の担い手の減少、文化芸術の担い手の減少、世帯構成の変化等）
○価値観の多様化（生活・行動様式等の多様化、「経済的価値」から、「心の豊かさ」を重視）
○地域コミュニティーの衰退（人間関係の希薄化、都市化、個人主義と市場経済が結びついた利便性志向の高まり）
○環境問題の進行（地球温暖化を原因とする災害被害（猛暑や集中豪雨）から、環境意識の高まり）
○教育や子育て環境の変化（子供同士が触れ合う機会の減少による自主性や社会性の低下）
○住民参画・協働意識の高まり（行政と市民、行政と企業等の協働による取り組みの推進）
○高度情報化・グローバル化の進展
（デジタル化の急速な進歩に伴うデジタルトランスフォーメーション（DX）の進展やAI・ビックデータ・ITO・ロボテクス等の技術革新による表現形態の多様化　高度情報の発信と受信、情報弱者・情報格差の発生、人間関係の希薄化）

【文化・芸術の捉え方の変化】

○基本的人権としての文化・芸術
芸術文化だけでなく、生活文化や文化財を含めた「文化・芸術」全体を、全ての人が享受、創造する環境を保障すべき基本的人権と捉える。
○文化・芸術そのものが持つ力に加え、関連分野との連携による課題解決等に期待
- 文化・芸術そのものが持つ力　→豊かな心、人々の心の繋がり、生きる力、主体性、自己表現力、多様性を受け入れる心の育英
- 連携すべき関連分野　→教育、福祉、産業・観光、まちづくり等
- 新たに「食」等が生活文化の範疇となる。

○企業との協働
社会的貢献の一分野とし、資金提供以外にも社業と関連強い取り組みや独自の自主企画等の実施